

核とわたしと原子力

上映会とお話

7.22 金

10:30開場 11:00~13:30
18:30開場 19:00~21:30
根津教会

7.23 土 7.24 日

9:30開場 10:00~22:00
途中に休憩をはさみながら。出入り自由
谷根千〈記憶の蔵〉

協力券 1000円 (3日間有効)

主催：上映会有志

脱原発
NO NUKES

◎協力

不思議 (はてな)
TEL&FAX 03-3828-3856
谷根千工房
<http://www.yanesen.net/>
映像ドキュメント.com
TEL 03-3815-1648 (スペース白山内)
<http://www.eizoudocument.com/>

NPO法人映画保存協会
<http://www.filmpres.org/>
白山 JAZZ喫茶『映画館』
<http://www6.ocn.ne.jp/~eigakan/>

光源寺 ギャラリーTEN
往来堂 羽鳥書店 銭風連

プログラム 〈予定〉

7/22 (金) 根津教会

朝の部 10:30開場

11:00～13:30

夜の部 18:30開場

19:00～21:30

◆チェルノブイリ そして フクシマ◆

復刻版 ドキュメントチェルノブイリ 24分 DVD

脅 威 ラップランドのチェルノブイリ後 72分 16ミリ

福島原発事故の4カ月 (仮題) 30分 DVD

7/23 (土) 谷根千〈記憶の蔵〉

朝の部 9:30開場

10:00開始

わが国の電力資源* 20分 16ミリ

ドキュメントチェルノブイリ 22分 16ミリ

脅 威 ラップランドのチェルノブイリ後 72分 16ミリ

福島原発事故の4カ月 (仮題) 30分 DVD

-----〈45分休憩〉-----

昼の部

13:30開始

あしたが消える どうして原発?* 60分 16ミリ

ほか 原発の立地～事故～解体

-----〈45分休憩〉-----

夜の部

18:00開始 22:00終了

原発切抜帖 45分 16ミリ

もし、この地球を愛するのなら* 26分 16ミリ

ほか

7/24 (日) 谷根千〈記憶の蔵〉

朝の部 9:30開場

10:00開始

ハーフライフ 80分 16ミリ

放射能はいらない! 食品汚染と生体濃縮 60分 ビデオ

原子力発電 仕組みと安全性* 28分 16ミリ

-----〈45分休憩〉-----

昼の部

13:30開始

24000年の方舟* 33分 16ミリ

わしも死の海におった 証言・被災漁船50年目の真実* 60分 DVD

福島原発事故の4カ月 (仮題) 30分 DVD

ほか

-----〈45分休憩〉-----

夜の部

18:00開始 22:00終了

不思議 (はてな) プレゼンツ

お楽しみに

※上映後に話をする時間をとります。

※事情によりプログラムの変更をする場合があります。

※23日、24日の一部に、無料でごらんになれる映画(*)があります。



復刻版

ドキュメント チェルノブイリ

高木仁三郎さんの遺言

解説：高木仁三郎（原子力資料情報室）
復刻版 DVD 2011年 7月
(1987年 3月初版公開、1988年 7月 改訂版
制作：反核パシフィックセンター東京)

上映当日
DVD (1200円)
発売開始

チェルノブイリ原発事故の様々な映像を日本において再構成し、解説した“高木仁三郎さんの遺言” DVD、24分

原子炉建屋の屋上には、砕け、吹きとばされた黒鉛が一面につもっている。除去作業にあたる人々は、スコップで黒鉛のかげらをひとすくしいし、建屋のはずれまで運んで放りなげる。カメラのとらえた場面を見ていると、自分自身が被ばくをしていくような錯覚におちいる。フクシマ後のいま、この映画は肉声で語られる“高木仁三郎さんの遺言”だったのだと思う。

脅 威

HOTEL
UHKKADUS

1987年 スウェーデン ステファン・ジャール監督、
日本語版制作 1988年 3月 (反核パシフィックセンター東京)
映画パンフレットあり、16ミリフィルム貸出も受付

スカンジナビア半島の北部でトナカイの遊牧生活を営むサミ(ラップ)の人々のチェルノブイリ後を描いた映像詩。ベルリン映画祭特別賞受賞。16ミリ、72分

スカンジナビア半島の北部でトナカイの遊牧生活を営む少数民族サミ(ラップ)の人々は、豊かな大自然のなかに、生活のすべてをつくりあげてきた。ところが、チェルノブイリの死の灰が彼らの地を突然襲った「あの日」以来、彼らの生活は根本からくつがえされてしまった。

彼らの暮らしぶりと、サミ人の夫婦ユンさんとリリムールさんの淡々とした語り口のなかから、サミの人たちの心が伝わってくる作品。

ビデオ
レポート **福島原発事故の4カ月** (仮題) 映像ドキュメント.com
<http://www.eizoudocument.com/>

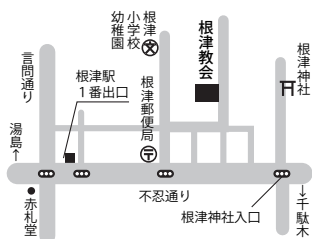
映像ドキュメントではこの間、福島原発事故をめぐる取材撮影し、サイトやYouTubeにアップしてきました。この4カ月の取材から見てきたものをまとめ、上映したいと考えています。

◎映画会の情報

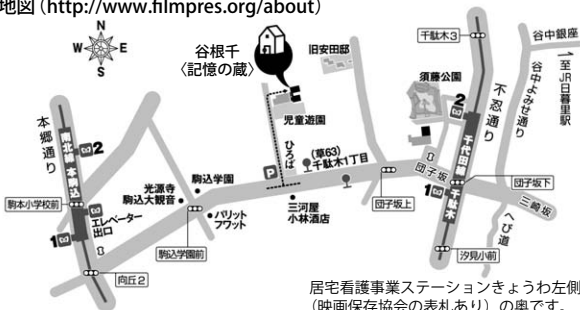
谷根千ねっと (<http://www.yanesen.net/>)、映像ドキュメント (<http://www.eizoudocument.com/>) のサイトでも追ってご案内します。

◎会場

根津教会 文京区根津1-19-6
TEL.03-3821-6342
<http://www15.ocn.ne.jp/~nzc/>



谷根千〈記憶の蔵〉 文京区千駄木5-17-13
地図 (<http://www.filmpres.org/about>)



居宅看護事業ステーションきょうわ左側 (映画保存協会の表札あり) の奥です。

あしたが消える どうして原発？

1989年 制作：原発を考える映画人の会
構成：千葉茂樹

原発で働いていた父を骨ガンでなくした主婦Kさんのモノローグを柱に、被ばく労働、原発事故、核廃棄物処分場の汚染など、原発問題を問い直す。16ミリ、60分

原発切抜帖

1982年 青林舎作品
企画・演出：土本典昭

時代の証言者としての新聞をとおして、広島から現在の原発大国ニッポンまでを、小沢昭一さんの語りでたどる。16ミリ、45分

もし、この地球を愛するなら

1982年 制作：カナダ政府

なぜこれほどまで核兵器が発達したのか。もしこの地球を愛し人類の未来を考えるなら、我々は何をなすべきか。医学博士ヘレン・カルデコット女史の講演と記録映像で構成。16ミリ、26分

半減期 HALFLIFE ハーフライフ

1985年 オーストラリア デニス・オロウク監督
日本語版制作 1987年 6月 (反核パシフィックセンター東京)

“被ばく難民”となったマーシャル諸島の人々 彼らが海のかなたから発する警告は

米国の核実験で被ばくしたマーシャル諸島の人々を追ったドキュメンタリー。いまなお続く深刻な放射能被害の現状と大国の傲慢さを描く。ベルリン映画祭参加作品。16ミリ、80分

放射能はいらない！ 食品汚染と生態濃縮

1988年 制作：BAP
解説：市川定夫

チェルノブイリの放射能が日本をも汚染するなか、市川定夫さんが放射能がどのようにして人体に影響をおよぼすかを解説し、安全宣伝のまやかしを論破する。ビデオ、60分

24000年の方舟

1986年 構成・監督：高橋一郎
プロデューズ：鶴久森典妙

核廃棄物の実態をとらえたドキュメンタリー映画。「核のゴミ」を処理管理していく方法はいまだにない。16ミリ、33分

わしも死の海におった 証言・被災漁船 50年目の真実

2010年4月再編集版(2004年5月放送)
制作：南海放送

ビキニ環礁で被ばくした高知船籍の漁船乗組員の50年後を追ったドキュメンタリー。あまり知られていないが第五福竜丸以外に900隻近くの漁船が被災していた。DVD、57分

